

「衆生の恩」

大本山總持寺単頭 柴田康裕

ご本山では、ほとんど毎朝四時に起床して坐禅を行じています。当番の日は、その一時間も前から起きて、色々な準備をしている修行僧もおります。みんな眠い目をこすりながら、一生懸命修行に励んでおります。

ですから、時折、檀信徒の方から「ご本山は朝が早くて大変ですね。」などと声をかけていただくこともございます。

しかし、先日、早朝の坐禅に向かう際、何気なく廊下を歩いておりますと、遠くの方から電車の走る音が聞こえて参りました。

その時、私は「こんなに朝早くから仕事をなさっている方がおられるのだ。」と思いました。中には、その日の夜勤を終えて、帰宅される方も乗車しておられたことでしょう。

つまり、朝が早いのは自分たちだけではないということです。

仏教には「四恩^{しおん}」というみ教えがございます。私たちを支えてくださる四つのお陰様ということです。

その一つに「衆生の恩^{しゅじょう おん}」ということがございます。こうして毎日修行させていただくことができるのも、多くの方のお力添えがあればこそだということです。朝早くから起きて、或いは夜通し仕事をされながら、社会を支えて下さる方がおられるからこそ、私たちも安心して修行することができるのです。

実際、ご本山は、全国の檀信徒のご協力によって支えられております。したがって、私たちが毎朝坐禅することができるのも、多くの檀信徒のお陰様であるのです。

ところが、ややもしますと、そうしたお陰様の心を忘れて、あたかも自分は厳しい修行をしているのだなどという、ある種の「うぬぼれ」に陥ってしまうことがございます。

瑩山禅師様は、『坐禅用心記』の中で「自らおごり高ぶって人を軽蔑したり、自分の修行を鼻にかけて、人をさげすむようなことがあってはならない。」とおっしゃっております。

常に謙虚な心を忘れることのないよう、自分自身の足元をしっかりと見つめながら、間違いのない坐禅を行じて参りたいと思います。